



# 問いかける言葉

国谷 裕子  
くにや ひろこ

私は、三十年間、テレビの報道番組のキャスターとして、さまざまな事象を伝え続けてきました。メディアは、情報を不特定の多くの人に伝える役割を担になっていますから、キャスターとしての私は、情報と視聴しちやう者をつなぐ媒介ばいかい者でした。いかに情報を的確に伝えるか、それがどんなに難しいテーマであつても、視聴者がそのテーマについての理解を深め、さらにそのあと、そのテーマについて、視聴者の一人一人が考えていくための手がかりを少しでも手渡しをした、そういう思いで仕事をしていたように思います。そうした仕事を続ける中で、私の仕事には、情報を伝えるだけでなく、問いを出し続けることがとても重要なことだ、という思いに行きつきました。

私は、海外と日本を行き来しながら四つの小学校と二つの中学校に通いました。海外の学校では、「あなたはと思う？」と、自分の考えを問われることがあたりまえでした。それは、多くの外国人のクラスメイトに囲まれた、一人だけの日本人である私を、きちんと認めてくれ

10

5

## ▼ キャスター

報道番組の進行役、解説やインタビューなどで情報を掘ほり下げ、伝える人。

## ▼ 聴

## ▼ 媒

## 意 事象

## 意 媒介

## 文 いかにか……か

ているということでした。しかし同時に、その質問は、自分の考えをもっていないと、そこにいない人、存在しない人と見られることにつながるようにも思えました。自分の考えをもち、それを人にわかるように伝えることはとても大事なことです。私は、その問いに必死になつて答えようと思いました。また、私自身も、何かがおかしいと感じたり、不思議に思えたりしたら、私以外の人はどう考えているのかと、積極的に疑問や問いを投げかけていくことにしたのです。

そこから、異なる考え方が飛び交う対話が始まりました。人の考え方、ものの見方は多様であり、皆は同じように考えていないのだという気づき、その異なる考え方をお互いに尊重しなければならぬという認識につながっていきました。人から問われること、人に問いかけることで、自分の存在を意識し、自分というものが次第に形づくられていったように思えます。

キャスターの仕事をするようになり、多くのゲストのかたにインタビューをする中で、問いかける言葉の大切さを改めて実感できるようになりました。その中で学んだことは、問いかける言葉は、曖昧なものではなく、具体的なものでなくてはならない、ということでした。具体的な質問は、質問された相手の思考を曖昧なものからより明確な思考へと導き、そのことでコミュニケーションの基盤となるお互いの共通認識の場が形成され、対話が生き生きとしたものになるのです。具体的に問われることで、曖昧だった考えがくつきりとしてくる、思いこみも含めた自分の考えが俯瞰できるようになる、聞き方次第で答えも変わってしまうと語ったゲストのかたもいました。こうした力が問いかける言葉にはあるのです。

かつて私たちは、新聞、テレビ、出版物といったマスメディアをおして多くの情報を得て

15

10

5

## 俯瞰

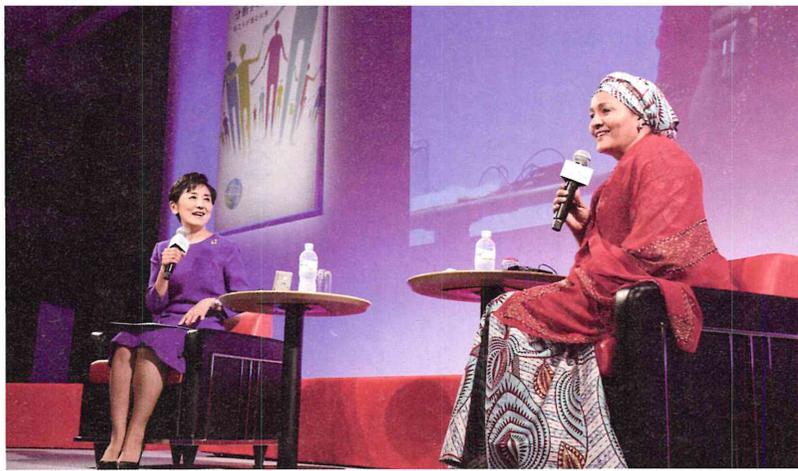
高い所から全体を見ること。

## 対 曖昧

## 類 具体的

## 意 基盤

## 類 俯瞰



国連副事務総長にインタビューをする

いました。しかし現在、メディアの種類も多様になり、私たちの世界を取り巻く情報は膨大で、よりスピーディーに行き交うようになっていきます。こうした中、私たちは、それらの情報について、立ち止まって吟味ぎんみしたり、整理したり、自分にとっての意味や価値を考える時間を失いつつあるように思えます。情報が、かえって人々の考える時間を奪っているのです。立ち止まる時間を失った人々は、わかりやすく、白か黒か、イエスかノーかの手っ取り早い結論を好むようになります。そして、わかったと思った瞬間、そこで人は考えることをやめてしまいます。

5

作家の井上ひさしいのうえが「風向きの法則」と呼んでいた現象があります。風が、次第に強くなってくると、その風向きに逆らって歩くのが困難になるように、ある考え方が広まってきて、それに反対する声が出しにくくなると、みんながそう言っているからと同調する声が多くなり、ますますその考え方が広まっていってしまう、というのです。

10

問いかける言葉は、その同調の流れをせき止め、「本当にその風向きは正しいのですか？」と、風になびきがちな人々にブレーキをかけ、立ち止まらせます。周りに流されず、自分で考えることをもたらしてくれるのです。

15

もう一つ、問いかける言葉の大事な役割は、異質な世界との出会いをもたらすことです。心

▼吟

井上ひさし

一九三四—二〇一〇

劇作家、小説家。代表

作に『吉里吉里人』『父

と暮せば』などがある。

- 類 膨大
- 考 吟味
- 文 なびく
- 類 異質

理学の用語に「確証バイアス」というものがあります。自分が共感したり、正しいと思えたりする情報だけを重要視して選択し、それに反する、否定する情報を避けようとする傾向のことです。インターネットなどによって一人一人が膨大な情報に直に接するようになって以降、こうしたバイアスが、人々の間に広がっているように思えます。

こうした中では、多様な人々の存在、自分とは異なる多様な考え方が存在していることを知る機会、異質なものとのお会いが次第になくなっていきます。それぞれが閉鎖的な情報空間を作り、同じような考え方もつた人々の間だけで対話を行うようになっていきます。そうなれば、異なる情報空間にいる人々との間に分断が起こり、相手に対して不寛容になり、お互いを排除しようとさえするようになります。そこには、異質なものに出会って戸惑い、悩み、考える機会はありません。

しかし、現実の世界が抱える課題は、さまざまに入り組み利害対立も複雑になっています。異なる考え方やさまざまな利害を抱えた人々が、社会的合意を求めて対話を積極的に行うことができないければ、課題の解決は不可能です。そのためには、お互いの情報空間を外に開き、自分たちとは異なる世界と出会うことが必要です。そのきっかけを作るのは、問いかける言葉です。

海外の学校で、質問すること、問いを出すことで新しい世界が現れることを経験した私は、日本に帰国して、同じようにクラスメイトに単刀直入に疑問を投げかけました。すると、けげんな顔をされることがたびたび起きたのです。皆が同じであることが尊重され、異なる意見を

バイアス

ここでは、ある傾向に偏ることをいう。

▼傾

▼寛

▼悩

意 単刀直入

文 げげん

15

10

5

もつこと、異なる意見を出すことはあまり歓迎されない。そういう空気が流れていると思った記憶があります。

日本の社会では、周囲の空気を読み取り、それに素早く溶けこむことが、人と人とのコミュニケーションにとって重要な要件であるとされているように思います。そして周囲に素早く溶けこむためには、何でもすぐにわかった気になることが求められているようにも思えます。

しかし、わからないものはわからないとして、もやもやが残ったほうがいいのではないのでしょうか。何かがおかしい、何か腑に落ちないという思い、そこから疑問が生まれ、問いを發していくことで対話は生まれます。決して結論を押しつけるのではなく、「あなたは どう思いますか?」と投げかける。言葉による問いかけには、閉じた世界に異質なものを投げこみ、新しい風を吹きこむことで、その閉じている世界を開いていく力があるのです。問いを出したり、出されたりすることは、自分の世界とは異なる世界との出会いを生み出すのです。



### 国谷 裕子 「一九五七」

大阪府に生まれた。ジャーナリスト。

著書に『キャスターという仕事』『国谷裕子と考えるSDGsがわかる本』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。

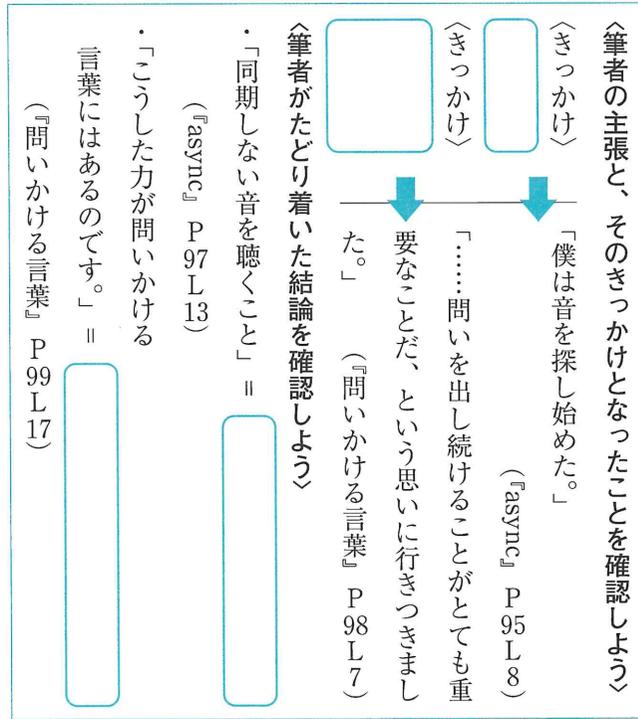
文  
腑に落ちない

# 千 みちしるべ

## 内容を捉えよう

学びナビ

1 次のそれぞれの文をもとに、文章の構成や展開、表現の仕方について、次のように図式化しながら整理しよう。



## 読み深めよう

学びナビ

2 それぞれの文章の「不寛容」「新しい」などの言葉に着目して、筆者の主張とその根拠、筆者の立場ともの見方・考え方、文章の展開と表現の仕方について、二つの文章の共通点や相違点をまとめよう。

## 自分の考えを伝え合おう

- 3 それぞれの文章における筆者の主張のよりどころを比べて、その説得力について話し合おう。
  - 4 それぞれの文章における表現の仕方を比べて、読み手に与える印象や効果について話し合おう。
  - 5 「不寛容」なことに対するそれぞれの筆者のものの見方や考え方の違いを捉えて、他者との関わり方や社会のあり方について、自分の考えをまとめて話し合おう。
- (1) 二人の筆者はどのような社会に対してメッセージを発しているか。
  - (2) 二人の筆者のものの見方や考え方の、どの部分に共通できるか。また、疑問に思う点や納得できない点、賛同できない点などがあるか。
  - (3) 自分の考えをまとめ、話し合う。



大田さん

○「不寛容」とはどのようなことか。

- ・ 社会の状況は？
- ・ 人と人との関係は？

……

土屋さん

○ 共感できる点

坂本さん

……

○ 共感できる点

国谷さん

……

○ 疑問点

坂本さん

……

○ 疑問点

国谷さん

……

実は考えが似ているかもしれない

### 言葉・情報

#### 言葉と表現

『async——同期しない』

次にあげる表現は、それぞれどのようなものか、考えよう。

- ・ 「同期」したもの
- ・ 「調律」したもの
- ・ 「共存」させたもの
- ・ 「一体となった」もの
- ・ 「一定のまとまり」のあるもの

『問いかける言葉』

次の言葉の意味を調べ、実際に使われている用例を集めてみよう。

- ・ 事象
- ・ 媒介者
- ・ 共通認識
- ・ 俯瞰

### 振り返り

- 不寛容
- 情報空間
- 一般化する表現
- つきつめれば、……になる。(P 96 L 14)
- 関係づける表現
- しかし同時に、……。 (P 99 L 1)
- 二つの文章について、それぞれの筆者の主張とその根拠を関係づけて読み、筆者の立場やものの見方、考え方を捉えているか。
- 二つの文章の構成や論理の展開、表現の仕方を比べて読み、社会のあり方や他者との関わり方について自分の意見をもっているか。
- 筆者の主張のよりどころを捉え、二つの文章を読み比べたことで、自分の考えがどのように深まったり広がったりしたかをまとめよう。

### この教材で学ぶ漢字

98 聴 チヨウ 聴衆  
きく 聴き入る

100 吟 ギン 詩吟  
ケイ 傾斜  
かたむく 傾き

101 寛 カン 寛大  
ノウ 悩  
なやむ 悩みごと

新出音訓

99次第(シ)

98 媒 バイ 媒体

101 傾 ケイ 傾斜  
かたむく 傾き

101 悩 ノウ 悩  
なやむ 悩みごと